

「TEAM EXPO 2025」プログラム／活動ヒアリングシート

◆共創チャレンジ名



廃棄ビニール傘のアップサイクルフラワー 「umbrella leaf project」

共創チャレンジ

2024.05.21



◆チーム名: octangle

◆活動地域: 日本／大阪

共創チャレンジ内容

～「TEAM EXPO 2025」プログラム登録内容～

より多くの人にアップサイクルの意義を感じてもらうために、身近なものから意識し続ける機会を増やそうと考え、
まずは年間約 8000 万本も消費され、その多くが半年以内には廃棄されてしまうビニール傘に着目。

回収したビニール傘を、選別、分解、洗浄した後に、ビニールをプレス機で何層にも圧着。
半透明で凸凹した素材の再生生地ができあがる。光に反射するとキラキラ光り、水や汚れに強く、軽量かつ丈夫な点が特長。

その生地を活用して、小さな白い花を咲かせ、雨に濡れると透明になる多年草「山荷葉(英名:umbrella leaf)」から

着想したアップサイクルフラワーを開発。

廃棄ビニール傘を透明な花に再生する本プロジェクトを通じてイベント会場や商業施設で空間演出やアートを展示。

またアップサイクルワークショップも実施している。

大阪・関西万博では、このアップサイクルフラワーを会場に訪れた来訪客に配布し、飾られることを目指している。

「アップサイクル×アート」を通じて、人の情動にポジティブな影響を及ぼし、固定化した社会の考えや行動を変えるために

重要な意義を果たし、環境課題の興味関心に繋げることを目的としている。

万博会期前～会期中の活動について

～これまでの活動や万博会期中の活動、万博会場で行ったことなど教えてください～

octangle は、万博を単なる「展示」ではなく、「共創チャレンジの社会実装に向けた実証実験期間」と位置づけ、多様なステークホルダーとの連携を加速させてきました。

1. 【認知と共感の拡大】話題性と行政連携の実績

「UPCYCLE×ART」広範な社会への認知獲得と、行政・公共性の高いプロジェクトでの実績

- ✓ ごみゼロ(530)大作戦(2024/5)
関西広域連合・大阪府共催イベントでのアート展示
- ✓ イオンモール・大阪府主催イベント等でのワークショップ(2024/4～)
大規模商業施設や自治体等でのワークショップ開催
高い集客力と親子の共感を実証
- ✓ MBS テレビ番組出演(2025/1)
万博応援番組「万博のおへそ」に出演
メディアへの露出によりブランドイメージを向上
雑誌「事業構想」他、記事掲載
- ✓ 関西パビリオン京都ブース(2025/8)
アップサイクルポンチョを展示

2. 【知性と未来の継承】学術連携

活動に知的な裏付けと未来への継続性を与えるため、教育・研究機関との連携を強化

- ✓ 京都里山 SDGs ラボ「ことす」でのアート展示(2024/9)
総合地球科学研究所とのコラボ展示、アート活動に学術的な信頼性を付与
- ✓ EXPO KYOTO MEETING(2025/4/23)
総合地球科学研究所教授、高校生が登壇するステージ衣装を提供

3. 【商業空間への展開】プロフェッショナルとの協業

万博に関連する大型企画や商業施設での実績

- ✓ EXPO OPEN STREET(2024/10)
乃村工藝社との共催ワークショップを実施。
- ✓ URBAN RESEARCH コラボ「アーバン博」で販売(2025/10)
- ✓ ルクア大阪 POP UP で万博作品を展示(2025/9)

【集大成】2025.9.9 大阪・関西万博「大阪ウィーク」

上記全ての共創の集大成として、企業・学生・アーティスト・福祉施設が一体となった共創モデルを発信。1日を通して、ライブアートパフォーマンス・事業紹介・ワークショップ・展示を行いました。

「TEAM EXPO 2025」を通じて出来たこと、変わったことについて

～「TEAM EXPO 2025」への登録を通じて活動の変化や、共創に繋がった成果など、教えてください～

万博への参加は、octangle の活動を「プロダクト」から「社会変革のプラットフォーム」へと進化させる大きな転換点となりました。

【「ごみという概念のない社会」への共創モデル確立】

1. モノからコトへの進化（意識の変革）

- ✓ TEAM EXPO 参加前： 廃棄傘を再利用したプロダクト販売が中心。
- ✓ TEAM EXPO 参加以降： ワークショップや空間演出を通じた、SDGs の「自分ごと化」体験の提供へと進化。

廃棄傘から生まれたオーナメントに来場者の「未来へのことば」を可視化し、高い共感を呼びました。

2. 共創モデルの証明と強化

- ✓ 企業、学生、アーティスト、福祉施設が一体となった運営体制が、社会課題解決の理想的なモデルケースとして高く評価されました。

3. 学術機関との信頼構築

- ✓ 総合地球科学研究所とのコラボレーションを実現。京都里山 SDGs ラボ「ことす」での展示制作など、アート活動に「科学的・学術的な裏付け」が加わり、教育コンテンツとしての信頼性が飛躍的に向上しました。

万博後の活動について

～今後の活動について、目標や構想など教えてください～

万博で得られた実績と共創ネットワークを活かし、より多くの企業・自治体とのパートナーシップを通じて未来の社会をデザインします。

- ✓ ブランドを輝かせる「アップサイクル・プロデュース」の深化・進化
企業の廃棄物を活用したサステナブルな空間デザイン、およびブランディングサポートを強化。
- ✓ 社会の意識変容への貢献
「アート・ワークショップ体験」を軸に、環境課題を『自分事』として捉え、行動変容を促す活動を全国に展開。
- ✓ サステナブル研修プログラムの開発・展開
『学ぶ』から『自社実装』まで、ステップを踏んで持続可能な未来戦略を形にするための企業向け研修プログラムを開発・提供します。